

# 令和7年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会

日時： 令和7年6月26日（木）午前10時30分～  
場所： 市水産研修センター+オンライン

## 次第

1 開会

2 挨拶

3 出席者紹介

4 協議

(1) E-2：気仙沼カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業について

(2) E-2：水産バリューチェーン研究会の今年度計画について

5 その他

6 閉会

## 【配布資料】

- 1 次第（本紙）
- 2 出席者名簿
- 3 説明資料
- 4 説明資料 - 別添資料

令和7年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会名簿

【気仙沼市デジタル水産業推進協議会E分科会員】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	分科会長	株式会社カネダイ	代表取締役社長	佐藤俊輔	会場
2	副分科会長	株式会社阿部長商店	経営管理部 部長	菅原圭介	会場
3		株式会社さんりくみらい	代表取締役	藤田純一	オンライン
4	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 教授	東海正	オンライン
5	各種団体 ・企業 (所属名順)	気仙沼漁業協同組合	代表理事組合長	齋藤徹夫	欠席
6		気仙沼商工会議所	総務課長兼デジタル化 推進室長	佐藤淳一	会場
7		株式会社石渡商店	代表取締役社長	石渡久師	
8		気仙沼漁業協同組合	魚市場部水揚管理課長	小野寺雄一	会場
9		気仙沼市物産振興協会	事務局長	高橋ちひろ	会場
10		株式会社八葉水産	取締役常務	清水健佑	会場
11		株式会社藤田鐵工所	代表取締役社長	米倉工雄	会場
12		宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所	支所長	菊地朋和	会場
13	関係 行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	総括技術次長兼班長	芳賀圭悟	会場
14	気仙沼市	気仙沼市	デジタル補佐官	種子野亮	

【オブザーバー】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	外部企業	株式会社フーディソン	代表取締役CEO	山本徹	オンライン
2		株式会社フーディソン	執行役員 / 部長兼地方創	木下太志	オンライン
3		株式会社フーディソン	sakana bacca事業部 地方創生担当	山本久美恵	オンライン
4	関係 行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	技術次長	中家浩	会場
5		東京海洋大学三陸サテライト		小松朋子	オンライン

【事務局】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	
1	気仙沼市	産業部水産課	課長	齋藤英敏	会場
2		産業部水産課漁業振興係	主幹兼係長	小野寺幸史	会場
3		産業部水産課漁業振興係	主査	川田成海	会場
4	吉澤企業	三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社	主任研究員	秋元康男	オンライン





---

# 令和7年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会説明資料

令和7年6月26日（木）

10：30～12：00

# 目次

---

協議1.1.～1.3. E-2：気仙沼産カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業

協議2.1.～2.2. E-2：水産バリューチェーン研究会の今年度計画

# 協議1.1. E-2：気仙沼産カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業 概要

## 1. 概要

本市に水揚げされるカツオ（以下「気仙沼産カツオ」）を対象魚として、水産バリューチェーンの構築に係る実証研究を行うとともに、かつお溜め釣り漁伝来350年記念事業として、首都圏における「気仙沼産カツオ」のプロモーション活動を行う。

## 2. 背景・趣旨

- (1) 本実証事業は、水産バリューチェーンの研究会の一環として、昨年整理した研究対象類型1「ライブコマース系」について、実証事業を通して具体的知見を獲得することを趣旨とする（協議1.2.～1.3.参照）。
- (2) 本年がかつお溜め釣り漁伝来350年記念事業であることから、(1)の実現に際して、対象魚をカツオとし、首都圏へのプロモーション活動を兼ねる狙い。

## 3. 内容（詳細は別添参照）

### (1) 概要

小売店・飲食店フェア

プロモーション活動（かつお溜め釣り漁350年記念事業）

アンケート調査（水産バリューチェーンの構築）

事後効果検証

- (2) 期間 令和7年6月～令和8年3月  
(うちフェア 令和7年9月後半～10月後半)
- (3) 主体 協議会
- (4) 委託先 株式会社フーディソン
- (5) 予算 10,000千円

## 協議1.2. 昨年度のE-2：水産バリューチェーン研究会の振り返り

#	日時	協議事項
第1回	令和6年10月7日（月） 15時～17時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水産バリューチェーンの定義</li> <li>● 水産物の流通工程～水産バリューチェーンの目指す取組み～水産物流通と気仙沼における課題の整理</li> <li>● 水産バリューチェーンの個別事例（国内・他分野）</li> </ul>
第2回	令和6年10月18日（金） 13時～15時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水産バリューチェーンの個別事例（海外） Fish With A Story（南アフリカ共和国）</li> <li>E-Fish / PacificSeafood / FULTON FISH MARKET（アメリカ合衆国）</li> <li>● 個別事例を踏まえた意見集約</li> </ul>



E分科会委員全体の意見を集約したうえで研究対象類型を複数に分類

研究対象類型1：ライブコマース系	研究対象類型2：FULTON FISH MARKET系	研究対象類型3：E-Fish系
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産者の顔が見える、消費者の意見が拾える、双方向の情報・価値とストーリー構築</li> <li>■ 消費者側から生産者（加工・流通業者）側に情報が戻る仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般消費者への正しい情報提供・理解醸成（気仙沼が取扱う魚種・食べ方）</li> <li>■ 情報のプロダクトアウト</li> <li>■ 消費者の意識変革 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 既存のバリューチェーンに対する「产地」としての新しい取組み</li> <li>■ 一般消費者の興味・関心を引くトレーサビリティ、ブランド化</li> </ul>

気仙沼では、魚種・ビジネスモデルは複数成立する=気仙沼の特性・強み



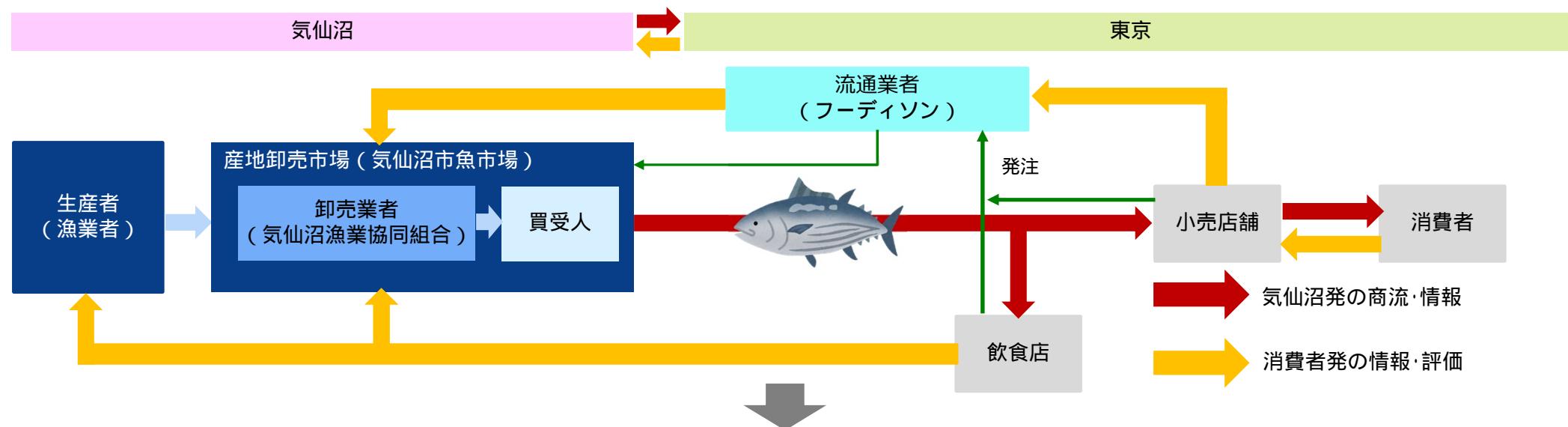
気仙沼に相応しい水産バリューチェーン（複数）の構築に向けた研究や講師招聘を進める

水産バリューチェーン研究会は幅広い魚種・流通形態を有する気仙沼の関係者のビジネスマッチングと新しいビジネスモデルの構築を支援する組織...との位置づけを想定

第3回	令和7年3月26日（水） 10時～12時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気仙沼における水産バリューチェーン構築水産バリューチェーンの定義 バリューチェーン構築全体イメージ 実証実験（案） → <b>令和7年度に実証実験を実施することを決定</b></li> </ul>
-----	-------------------------	---

## 協議1.3. E-2 : 気仙沼産カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業 ポンチ絵

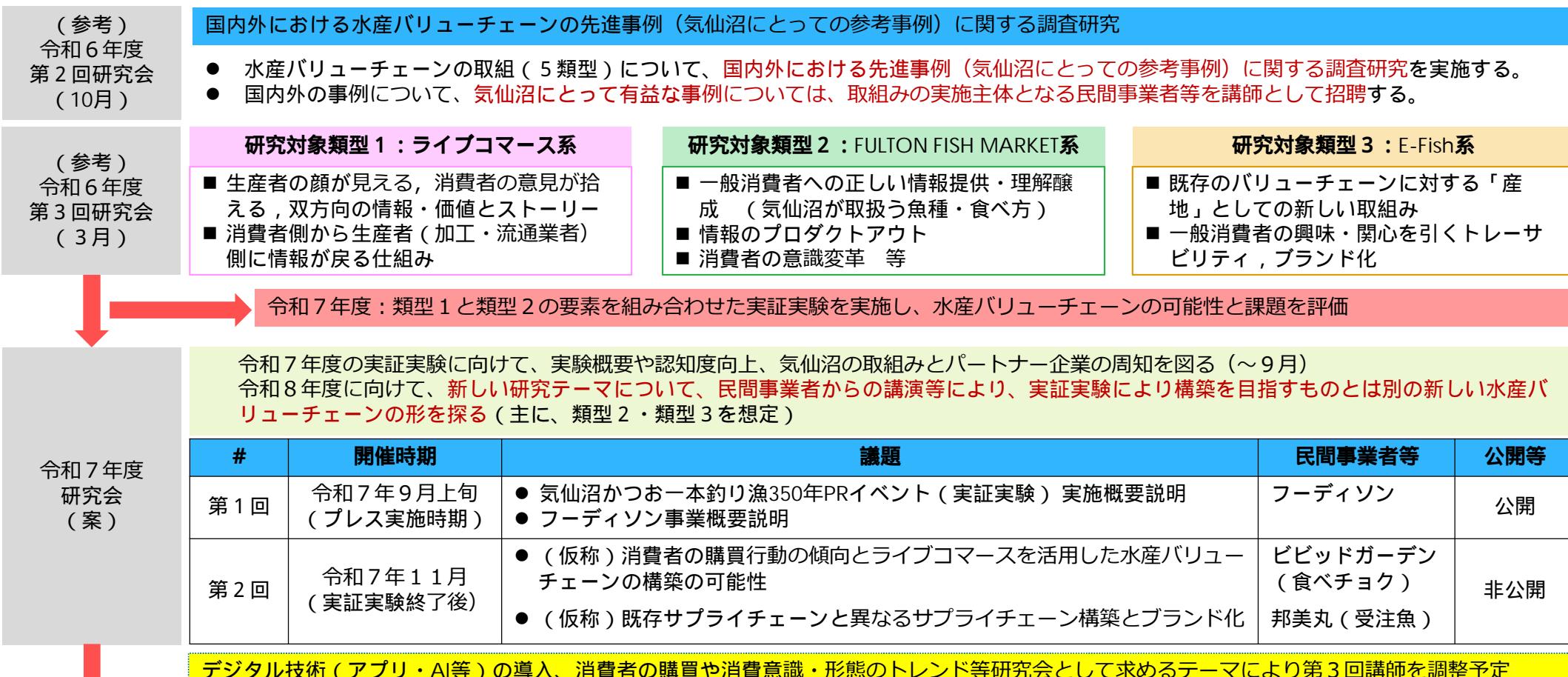
- E分科会で研究・協議を重ねてきた水産バリューチェーンについて、実際に気仙沼の商品を流通に乗せ、消費者に届けた場合、情報が適切に伝わるか、消費者から評価が得られるなどについて、実証実験により、水産バリューチェーン構築のあり方を検証する。
- 実証実験（案）の概要は次のとおり。
  - 実施目的： 気仙沼産カツオ（商品）と付随する正しい情報を気仙沼から消費者に届ける（情報のプロダクトアウト）。  
気仙沼の商品を購入した消費者（飲食店等含む）から、商品に対する評価を把握し気仙沼にフィードバックする。
  - 実験概要： 小売店フェア（量販店・sakana bacca・新幹線輸送）、飲食店フェア、PR（プレスリリース・メディア誘致）  
上記に係るアンケート調査（消費者・バイヤー・飲食店シェフ）  
実施時期：令和7年9月～10月
  - 対象魚種： カツオ（気仙沼で最も一般的な魚種、かつ、一本釣り漁350年PR）
  - 協力事業者： 株式会社フーディソン 「首都圏とのネットワーク」「流通構造（sakana bacca等）」「販促活動支援実績」から選定



実証実験の結果を踏まえて、今後、気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの構築に向けた検討に活用する

## 協議2.1. E-2：水産バリューチェーン研究会の今年度計画（案）

- 水産バリューチェーン研究会の設置目的は「気仙沼が目指す取組みや水産バリューチェーンのあり方を関係者間で具体化する」こと。



令和8年度の事業計画（令和7年度の結果を踏まえた水産バリューチェーンの見直し+新規テーマへの取組み）の立案へ繋げ、次年度展開の方向性を検討する

## 協議2.2. E-2：水産バリューチェーン研究会の今年度計画（案）②

令和6年度：気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの構築に向けた事例研究と実証実験の枠組み構築

令和7年度：実証実験を通じて気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの可能性と課題を評価

- 令和7年度は、気仙沼産カツオを商材とした実証実験を主要取組みと位置づける。実証実験は9月～10月に実施する。
- 実証実験後、11月から事業評価・分析を進め、1月には実証実験結果をとりまとめる。
- 実証実験の事業評価結果を踏まえ、**令和8年度の事業計画**の立案を進め、3月の研究会（分科会）で事業計画を決定する。

令和8年度の事業計画は、令和7年度の結果を踏まえた拡充や新規テーマ（例：E-Fish系）の取扱いなどを幅広に協議して決定する。

項目・時期	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3
E分科会												
E-2作業部会												
実証研究												
実施方針検討												
事前調整												
周知・PR												
実証（フェア）												
事業評価・分析												
結果まとめ												
研究会												
次年度計画立案												



# 令和7年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会説明資料

令和7年6月26日（木）  
10：30～12：00

# 目次

---

協議1.1.～1.3. E-2 : 気仙沼産カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業

協議2.1.～2.2. E-2 : 水産バリューチェーン研究会の今年度計画

# 協議1.1. E-2：気仙沼産カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業 概要

## 1. 概要

本市に水揚げされるカツオ（以下「気仙沼産カツオ」）を対象魚として、水産バリューチェーンの構築に係る実証研究を行うとともに、かつお溜め釣り漁伝来350年記念事業として、首都圏における「気仙沼産カツオ」のプロモーション活動を行う。

## 2. 背景・趣旨

- (1) 本実証事業は、水産バリューチェーンの研究会の一環として、昨年整理した研究対象類型1「ライブコマース系」について、実証事業を通して具体的知見を獲得することを趣旨とする（協議1.2.～1.3.参照）。
- (2) 本年がかつお溜め釣り漁伝来350年記念事業であることから、(1)の実現に際して、対象魚をカツオとし、首都圏へのプロモーション活動を兼ねる狙い。

## 3. 内容（詳細は別添参照）

### (1) 概要

- ① 小売店・飲食店フェア
- ② プロモーション活動（かつお溜め釣り漁350年記念事業）
- ③ アンケート調査（水産バリューチェーンの構築）
- ④ 事後効果検証

(2) 期間 令和7年6月～令和8年3月  
(うちフェア 令和7年9月後半～10月後半)

(3) 主体 協議会

(4) 委託先 株式会社フーディソン

(5) 予算 10,000千円

## 協議1.2. 昨年度のE-2：水産バリューチェーン研究会の振り返り

#	日時	協議事項
第1回	令和6年10月7日（月） 15時～17時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水産バリューチェーンの定義</li> <li>● 水産物の流通工程～水産バリューチェーンの目指す取組み～水産物流通と気仙沼における課題の整理</li> <li>● 水産バリューチェーンの個別事例（国内・他分野）</li> </ul>
第2回	令和6年10月18日（金） 13時～15時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水産バリューチェーンの個別事例（海外） Fish With A Story（南アフリカ共和国）</li> <li>E-Fish／PacificSeafood／FULTON FISH MARKET（アメリカ合衆国）</li> <li>● 個別事例を踏まえた意見集約</li> </ul>



E分科会委員全体の意見を集約したうえで研究対象類型を複数に分類

研究対象類型1：ライブコマース系	研究対象類型2：FULTON FISH MARKET系	研究対象類型3：E-Fish系
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産者の顔が見える、消費者の意見が拾える、双方向の情報・価値とストーリー構築</li> <li>■ 消費者側から生産者（加工・流通業者）側に情報が戻る仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般消費者への正しい情報提供・理解醸成（気仙沼が取扱う魚種・食べ方）</li> <li>■ 情報のプロダクトアウト</li> <li>■ 消費者の意識変革 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 既存のバリューチェーンに対する「产地」としての新しい取組み</li> <li>■ 一般消費者の興味・関心を引くトレーサビリティ、ブランド化</li> </ul>

※気仙沼では、魚種・ビジネスモデルは複数成立する=気仙沼の特性・強み



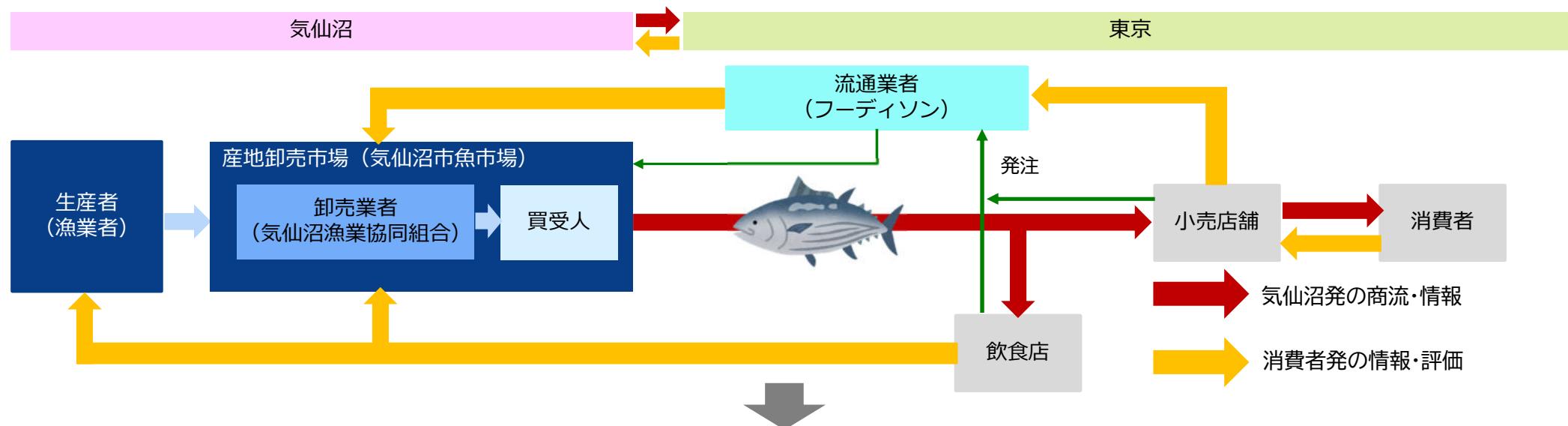
気仙沼に相応しい水産バリューチェーン（複数）の構築に向けた研究や講師招聘を進める

※水産バリューチェーン研究会は幅広い魚種・流通形態を有する気仙沼の関係者のビジネスマッチングと新しいビジネスモデルの構築を支援する組織...との位置づけを想定

第3回	令和7年3月26日（水） 10時～12時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気仙沼における水産バリューチェーン構築水産バリューチェーンの定義 バリューチェーン構築全体イメージ 実証実験（案） → <b>令和7年度に実証実験を実施することを決定</b></li> </ul>
-----	-------------------------	---

### 協議1.3. E-2：気仙沼産カツオのプロモーション及び水産バリューチェーン実証研究事業 ポンチ絵

- E分科会で研究・協議を重ねてきた水産バリューチェーンについて、実際に気仙沼の商品を流通に乗せ、消費者に届けた場合、情報が適切に伝わるか、消費者から評価が得られるかなどについて、実証実験により、水産バリューチェーン構築のあり方を検証する。
  - 実証実験（案）の概要は次のとおり。
    - 実施目的 : ①気仙沼産カツオ（商品）と付随する正しい情報を気仙沼から消費者に届ける（情報のプロダクトアウト）。  
②気仙沼の商品を購入した消費者（飲食店等含む）から、商品に対する評価を把握し気仙沼にフィードバックする。
    - 実験概要 : 小売店フェア（量販店・sakana bacca・新幹線輸送）、飲食店フェア、PR（プレスリリース・メディア誘致）  
上記に係るアンケート調査（消費者・バイヤー・飲食店シェフ）  
実施時期 : 令和7年9月～10月
    - 対象魚種 : カツオ（気仙沼で最も一般的な魚種、かつ、一本釣り漁350年PR）
    - 協力事業者 : 株式会社フーディソン ※「首都圏とのネットワーク」「流通構造（sakana bacca等）」「販促活動支援実績」から選定



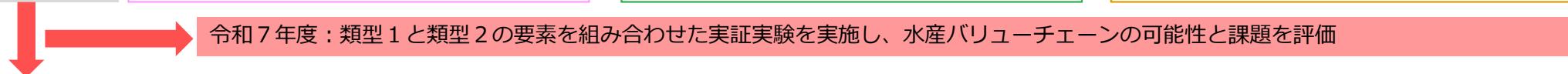
実証実験の結果を踏まえて、今後、気仙沼がを目指すべき水産バリューチェーンの構築に向けた検討に活用する

## 協議2.1. E-2：水産バリューチェーン研究会の今年度計画（案）

- 水産バリューチェーン研究会の設置目的は「気仙沼が目指す取組みや水産バリューチェーンのあり方を関係者間で具体化すること。

(参考) 令和6年度 第2回研究会 (10月)	国内外における水産バリューチェーンの先進事例（気仙沼にとっての参考事例）に関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"><li>● 水産バリューチェーンの取組（5類型）について、国内外における先進事例（気仙沼にとっての参考事例）に関する調査研究を実施する。</li><li>● 国内外の事例について、気仙沼にとって有益な事例については、取組みの実施主体となる民間事業者等を講師として招聘する。</li></ul>
----------------------------------	---

(参考) 令和6年度 第3回研究会 (3月)	<b>研究対象類型1：ライブコマース系</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 生産者の顔が見える、消費者の意見が拾える、双方向の情報・価値とストーリー</li><li>■ 消費者側から生産者（加工・流通業者）側に情報が戻る仕組み</li></ul>	<b>研究対象類型2：FULTON FISH MARKET系</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 一般消費者への正しい情報提供・理解醸成（気仙沼が取扱う魚種・食べ方）</li><li>■ 情報のプロダクトアウト</li><li>■ 消費者の意識変革 等</li></ul>	<b>研究対象類型3：E-Fish系</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 既存のバリューチェーンに対する「产地」としての新しい取組み</li><li>■ 一般消費者の興味・関心を引くトレーサビリティ、ブランド化</li></ul>
---------------------------------	---	--	---



- ① 令和7年度の実証実験に向けて、実験概要や認知度向上、気仙沼の取組みとパートナー企業の周知を図る（～9月）  
② 令和8年度に向けて、新しい研究テーマについて、民間事業者からの講演等により、実証実験により構築を目指すものとは別の新しい水産バリューチェーンの形を探る（主に、類型2・類型3を想定）

#	開催時期	議題	民間事業者等	公開等
第1回	令和7年9月上旬 (プレス実施時期)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 気仙沼かつお一本釣り漁350年PRイベント（実証実験）実施概要説明</li><li>● フーディソン事業概要説明</li></ul>	フーディソン	公開
第2回	令和7年11月 (実証実験終了後)	<ul style="list-style-type: none"><li>● （仮称）消費者の購買行動の傾向とライブコマースを活用した水産バリューチェーンの構築の可能性</li><li>● （仮称）既存サプライチェーンと異なるサプライチェーン構築とブランド化</li></ul>	ビビッドガーデン (食べチョク) 邦美丸（受注魚）	非公開

デジタル技術（アプリ・AI等）の導入、消費者の購買や消費意識・形態のトレンド等研究会として求めるテーマにより第3回講師を調整予定

令和8年度の事業計画（令和7年度の結果を踏まえた水産バリューチェーンの見直し+新規テーマへの取組み）の立案へ繋げ、次年度展開の方向性を検討する

## 協議2.2. E-2：水産バリューチェーン研究会の今年度計画（案）②

令和6年度：気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの構築に向けた事例研究と実証実験の枠組み構築

令和7年度：実証実験を通じて気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの可能性と課題を評価

- 令和7年度は、気仙沼産カツオを商材とした実証実験を主要取組みと位置づける。実証実験は9月～10月に実施する。
- 実証実験後、11月から事業評価・分析を進め、1月には実証実験結果をとりまとめる。
- 実証実験の事業評価結果を踏まえ、**令和8年度の事業計画**の立案を進め、3月の研究会（分科会）で事業計画を決定する。  
※令和8年度の事業計画は、令和7年度の結果を踏まえた拡充や新規テーマ（例：E-Fish系）の取扱いなどを幅広に協議して決定する。

項目・時期	R7.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8.1	2	3
E分科会			①									②
E-2作業部会	①②	③	④			➡		➡			➡	
実証研究												
実施方針検討	➡											
事前調整				➡								
周知・PR						➡						
実証（フェア）							➡					
事業評価・分析								➡				
結果まとめ								➡				
研究会	➡					①	➡		②	➡		
次年度計画立案										➡		

プレスリリースと同日に研究会（一般公開）を開催し、実証実験のPRにも繋げる